

デング熱の国内感染事例にかかわる本市の対応について

平成 26 年 8 月 27 日に厚生労働省がデング熱の国内感染事例を公表して以降、全国で多数の患者が発生し、市内でも 7 人の患者が確認されておりますので、本件にかかわる本市の対応について御報告いたします。

1 経緯

平成 26 年 8 月 27 日、厚生労働省は海外渡航歴のないデング熱患者の国内感染事例を公表しました。翌 28 日には、新たな 2 人の国内感染事例の患者を公表するとともに、代々木公園で感染した可能性が高いとする旨の公表を行いました。

その後、本市を含め、代々木公園周辺に出かけた方の中から、国内感染を疑われる多数の患者が全国で確認され、さらに代々木公園周辺以外の新宿中央公園や千葉市稲毛区等の他の地域で感染したと推定される事例が確認されています。

2 本市の患者発生状況

9 月 10 日現在、市内医療機関から届出されたデング熱患者は 7 人で、うち横浜市民は 6 人でした。いずれの患者も最近の海外渡航歴はなく、代々木公園周辺を 8 月 16 日から 29 日の間に利用していました。また、現在入院している患者はおらず、いずれも回復又は回復傾向にあります。

3 これまでの本市の対応状況

(1) 市民への周知

9 月 1 日に市民の皆様に向けて、「蚊に刺されて高熱が続いた場合には、蚊に刺されないように注意して、かかりつけの医療機関を受診いただくこと」等の注意喚起を、市のホームページのトップに掲載いたしました。

(2) 医療機関への周知

8 月 28 日に市内医療機関あてに、国内感染が疑われるデング熱患者を診察した場合には、診断前であっても速やかに保健所へ情報提供いただくよう依頼しました。

(3) 「海の公園 犬の遊び場」(金沢区)での対応

8 月に代々木公園でデング熱に感染した患者の聞き取り調査の結果、発症 3 日後に金沢区の「海の公園 犬の遊び場」にて蚊に刺されていたことが判明しました。この患者を刺した蚊がデング熱を感染させる能力があるか不明であることから、9 月 5 日から当該場所での蚊のモニタリング調査を行い、デングウイルスを保有していないことを確認しました。

今後、雑草の草刈り等の一般的な蚊の防除対策を行った後、9 月 16～17 日に再度蚊を採取してデングウイルスの保有状況を調査し、安全を確認していきます。

(4) 定期的な蚊のモニタリング調査の実施

本市では、平成 23 年度から毎年度、市内 19 か所の公園や市民利用施設において、6～10 月までの間、月 1～2 回、定期的に蚊のウイルス保有状況を確認しています。これまでのところデングウイルスを検出したことはありません。

4 今後の対応

これまでのところ、横浜市内に生息する蚊に刺されたことによる感染は確認されていませんが、これまで行っている定期的な蚊のモニタリング調査を10月上旬まで継続して、市内の蚊のウイルス保有状況を確認していきます。

また、市内に生息する蚊に刺されたことによるデング熱患者が発生した場合に備えて、医療機関や関係部局と連携を図ってまいります。

【参考】デング熱について

デング熱は人から人に直接感染する病気ではありません。ウイルスに感染した患者を蚊が吸血すると蚊の体内でウイルスが増殖し、その蚊が他者を吸血することではじめて感染します。また、感染した場合も、一般に一週間前後の経過で回復すると言われています。